

自己評価報告書

平成23年 5月 27 日現在

機関番号：25403

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：平成20～平成24年度

課題番号：20520648

研究課題名（和文）冷戦初期における米国核政策と被爆者・ヒバクシャ情報

研究課題名（英文） U. S. Nuclear Policy and the Information on Hibakusha in Early Cold War Era

研究代表者

（ 高橋博子 ）

研究者番号：00364117

研究分野：

科研費の分科・細目：

キーワード：

- (1) 西洋史
- (2) 日本史
- (3) 政治学
- (4) 残留放射線
- (5) 病理学
- (6) 核実験
- (7) 被爆者
- (8) ABCC

1. 研究計画の概要

本研究の目的は広島・長崎で収集された被爆資料が、米国政府によって冷戦政策の中でどのように利用され、いかなる核時代が作られていったのかを、近年公開された資料や広島・長崎の被爆者や核実験によるヒバクシャの証言の分析によって浮き彫りにすることである。

2. 研究の進捗状況

これまでの研究では、初年度に放射線の影響についてのワークショップを開催し、とりわけ内部被曝問題について学際的な意見交換を行った。原爆・核実験の放射線の影響についての情報がどのように米国政府によって統制され、また公開されてきたのかを、日本占領期、占領終了直後、ビキニ水爆被災以降に分けて裏付けてゆくため、関連映像・写真・書籍を収集した。またそうした情報統制の中、核兵器・被爆者・ヒバクシャ情報、とりわけ放射線の人体への影響に関する情報や放射性降下物に関する情報がアメリカの冷戦文化の中にどのように反映されていったのか、主に1950年

代に製作された映画や文学作品を中心に検討した。収集された被爆者・ヒバクシャの実相を示す情報と、フィクションの中で描かれた核戦争のイメージとが具体的にどのような開きがあるのかについて、2009年度に実施された第3回ヒロシマ平和映画祭と連携して、検討・議論を行った。

さらに日本科学史学会の欧文誌に拙稿が掲載された。

3. 現在までの達成度

30パーセント

4. 今後の研究の推進方策

1954年3月1日のビキニ環礁での米核実験で被災した第五福竜丸を初めとする米核実験によって被ばくしたマグロ漁船の乗組員の被災状況を明らかにするために、被ばく者側の証言を実験当局者である米原子力委員会の資料や日本人研究者側の資料から多角的に裏付けてゆく調査を進めたい。また、1954年当時、厚生省は放射線計測器で一分間で500カウント計測すれば破棄する方針となっており、多くの漁獲マグロが破棄された。その背景に

[その他]

当時大阪市立大学助教授であった西脇安博士が第五福竜丸を早速調査し、また漁獲物への調査・分析に早速取り組んだことが大きい。西脇博士は10月に世界に向けて「死の灰」の警告を発し、1955年7月の「ラッセル・アインシュタイン宣言」に結びつくなど世界史的に重要な役割を果たした。しかしながら、1954年11月の日本学術会議主催の放射線の影響に関する日米会議を契機として、1954年末に厚生省はマグロ調査を終了する。本研究では、食料・水を通して入ってくる放射性物質による内部被ばくが、とりわけ日本においてどのように軽視され、現在に至っているのを、放射性降下物や内部被曝問題の専門家を招いて検証したい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

Hiroko Takahashi, “One Minute after the Detonation of the Atomic bomb: The Erased Effects of Residual Radiation” *HISTORIA SCIENTIARUM* Vol. 19-2 (2009)

[学会発表] (計 件)

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：